

平成 23 年度 第 1 回 行政改革推進本部会議 議事録

開催日：平成 23 年 5 月 26 日（木） 15:00～15:50

会場：401 会議室

協議事項：(1) 行政改革推進計画等の平成 22 年度の実績結果（暫定）について
(2) 第 4 次上越市行政改革大綱（案）等について

出席者：市長、野口副市長、教育長、総務管理部長、財務担当部長、自治・市民環境部長、健康福祉部長、保育・少子化対策担当部長、産業観光部長、農林水産部長、都市整備課長（都市整備部長の代理）、教育部長、ガス水道局次長（ガス水道局長の代理）、会計管理者、防災危機管理課長（危機管理監の代理）、土地開発公社常務理事

発言の内容

< 本部長（市長）あいさつ >

- ・ 本日は、第 3 次行政改革推進計画の実績結果の総括及び、昨日、行政改革大綱等策定委員会から答申をいただいた第 4 次行政改革大綱（案）、さらに大綱のアクションプランとなる行政改革推進計画の概要についての報告・協議のため、本部会議を開催するものである。
- ・ 第 3 次行政改革推進計画の実績結果については、4 つの大目標のうち「土地開発公社の保有土地 125 億円の削減」については、目標が達成できない見込みとなっている。
- ・ 第 3 次行政改革については、昨年度をもって計画期間が終了し、実績結果を評価・検証した上で、継続すべき取組については、第 4 次行政改革大綱等に継承しているが、それぞれの取組を主管する部課においては、実績結果を十分に精査し、課題や問題点、改善すべき点を洗い出した上で、今後の行政改革の取組につなげていただきたい。
- ・ このたび策定する第 4 次行政改革大綱は、第 5 次総合計画の将来都市像の実現に向けた「すこやかなまちづくり」の取組の下支えとして位置付け、昨年度、実施した「事務事業の総ざらい」で明らかになった行財政運営上の課題や、「中期財政見通し」で示された将来の財源不足に対応するための取組を盛り込んでいる。
- ・ これから上越市が進んでいく方向を大綱で明らかにし、そのために推進計画に様々な計画をぶらさげて、市民にも行政が何に取り組んでいるかを分かるようにしていきたい。
- ・ その中には、「市民社会へのアプローチによる『新しい公共』の創造」を設定し、行政と市民が一体となった「自治体改革」に取り組むこととしている。
- ・ 今後は、大綱のアクションプランである行政改革推進計画の策定作業を進め、本年 9 月頃を目途に計画をまとめ、具体的な取組につなげていく。そして、市民に公表するとともに、自分たちのものとして取り組んでいくという体制を整えていきたい。
- ・ いずれにしても、「すこやかなまちづくり」のためには、行財政改革は最優先の課題であ

り、このことを、職員一人ひとりが十分に認識し、全庁的な取組を継続・強化したいと考えている。そのことを職員に周知徹底し、人のことではなく自分たちのこととして取り組むという意識を是非、持っていただきたい。

<(1) 行政改革推進計画等の平成 22 年度の取組結果（暫定）について>

【永野行政管理課長】

- ・資料 1-1、1-2 に基づき説明

【村山市長】

- ・事務局の説明に対して、意見や質問はないか。

【土橋財務担当部長】

- ・3次大綱の最終年度に当たるが、全体の総括や4次大綱へ持ち越す課題の整理など、今後どのように行うつもりか。

【永野行政管理課長】

- ・3次大綱の総括は、第2回の本部会議で行いたい。
- ・4次大綱に引き継ぐ内容は、大綱（案）の7ページにまとめた。4次大綱は「行財政改革による行財政運営の適正化」と「市民社会へのアプローチによる『新しい公共』の創造」の2つの柱で構成している。「行財政改革による行財政運営の適正化」の取組のほとんどが3次大綱から引き継がれている。6ページにも記載したとおり、「事務事業の総ざらい」の課題を包括する中で取り組んでいきたい。
- ・3次大綱での取組は4次大綱にもきちんと引き継いでおり、3次大綱の中で達成されなかったものは達成できるようにし、成果のあったものはさらに成果があげられるようにしていきたい。

【野澤部長】

- ・大目標の2から4は、予算編成の時点で見えるのに対し、大目標の1が一番大事であり、評価も難しいと思う。
- ・平成22年度は達成となっているが、いかがか。人材育成方針の策定や総ざらいを実施したので達成と読めるが、この資料が外部に出たり職員が共有したりするには弱いのではないか。具体的な取組項目では、人材育成の項目で×が付いている。一番大事な取組であるので、達成だとすれば丁寧に、具体的に説明をし、我々がこれからどうすればよいか分かるようにした方がよい。

【市村総務管理部長】

- ・人事考課という目標自体が硬直化してしまったという反省がある。
- ・他にも取組にふさわしい目標だったのかというものもある。取組が変わっていく中で目標も変更していてもよいのかもしれない。
- ・4次大綱の目標についても考えていかなければならないと思っている。4次大綱は、汗をかくような内容として全庁的な取組としたいと考えており、各本部員にもそのよ

うな心づもりで推進計画に取り組んでほしい。

【村山市長】

- ・大目標を達成したらどうなるのかが全く見えない。単年度収支の黒字化、財政調整基金の維持、借金の返済など、そうなったらどうなるのか、その後の絵姿がない。
- ・目標をシステムチックに設定してしまったことで、その先が見えず、正直、この目標は意味がないと思っている。
- ・広告収入で 千円という数字が上がっているが、その目標が何を意味するのか、自分たちが頑張ればどういうところに行き着くのか、ということを経営しないで設定している。千円という予算額が目標となっていて、それが達成されなかったとしても全く意味のない議論をしていると思う。
- ・頑張ったらその次に何がある、ということを見せないから職員は本気にならない。残業を減らそうとする場合、残業が減るとワークライフバランスや生活の姿がどのような状態になる、という議論がなければ物事は整理できない。その整理ができないと職員は目標を設定できない。
- ・3次大綱は形だけの議論で目標を設定している。目標の先にある本来の目標を管理できなかったのが3次大綱だと思うので、4次大綱は大綱の方向性を踏まえた推進計画をまわしていきたい。推進計画をまわせば、職員はどうなる、財政状況はどうなる、公の施設の統廃合計画はどうなる、といったものを踏まえ取り組んでいきたい。

<(2) 第4次上越市行政改革大綱(案)等について>

【永野行政管理課長】

- ・資料2-1、2-2に基づき説明

【村山市長】

- ・事務局の説明に対して、意見や質問はないか。

【野澤健康福祉部長】

- ・取組内容はよいと思うが、「人材育成」だと、誰かが誰かを育てることになり、誰かがやることになる。
- ・なかなか、いい表現が思いつかないが、職員自らの視点で捉えられるような表現はないか。

【永野行政管理課長】

- ・3次大綱やパブリックコメントの結果を踏まえ、行革をまわすのは職員であり、資質の向上を含めた人材の育成が必要であると考えた。

【市村総務管理部長】

- ・組織として人材を育成するだけでなく、マインドの育成も大事であると考えている。行革の中ではマインドの取組には限界があるかもしれないが、職員のスキルアップ、資質向上と並行してマインド育成にも力を入れていきたい。

- ・人材育成の中に、これらの取組を包含しており、言葉としては「人材育成」と整理している。

【村山市長】

- ・本文には、組織のための人材を育てる、そういう組織作りをするということが書いてあるが、それを「人材育成」という言葉で簡単にくくってしまった感がある。

【野澤健康福祉部長】

- ・最近、人材育成で気に入っているのは、「価値観・基本姿勢の共有」「チーム市役所」である。「人材育成」ではインパクトがない。

【村山市長】

- ・組織が求める人材を組織自らが作っていくということが、タイトルだけでイメージできるようにということだと思うが、本文ではそういう意味合いになっていると思う。

【横山会計管理者】

- ・具体的な取組項目に「財政調整基金の活用と確保」とあるが、活用とはどういうことか。資金運用とリンクするのか、別なのか。

【土橋財務担当部長】

- ・普通交付税を財政調整基金として貯める一方で、必要な事業の財源に充てるという意味であり、資金運用の原資とするわけではない。

【村山市長】

- ・協議を踏まえ、若干の字句の修正があれば事務局に任せていただきたいが、提出された案を確定版にするということによいか。

一同異議なし

- ・策定委員会からの答申を受け、全体の方向性をまとめたものであり、取り組むべき内容も網羅されている。今後、推進計画と個別計画の取りまとめは同時作業となる。
- ・各部局が担う個別計画は詳細に渡り、最終的には財政計画に集約される。策定の趣旨や何のためにつくるのか、といったことを職員に語ってほしい。職員がミッションを理解した上で、チームとして作っていくということをしてほしい。
- ・予算を目標とすることは行革ではない。今回はそうならないように、5次総、4次大綱、推進計画、という全体の流れを理解してもらった上で作業してほしい。みんなで共有して整理しないと次の上越市が見えない。逆に言えば、きちんと詰めれば5年後の上越市の姿を共有しながら進んでいける。
- ・自分のところの計画だけが一人歩きするわけではなく、お互いがそれぞれの計画を意識しながら進んでいくことになる。部局長同士が連携し、進捗状況の共有や課題の整理をしながら進めてほしい。稲荷副市長にもお願いしておくので、そのような中での作業をこれからしっかりお願いしたい。